

資料 3

報	1
総 会	1 8 2

日本学術会議活動状況報告

会長、副会長、各部部長 及び若手アカデミー代表報告資料

4月21日（水）

日本学術会議活動状況報告

令和3年4月21日

前回（第181回）総会以降の活動状況報告

第1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
10月5日(月)	第13回アカデミー・プレジデント会議2020(オンライン)	梶田会長 高村副会長
10月16日(金)	菅義偉内閣総理大臣との面談	梶田会長
10月23日(金)	井上信治内閣府特命担当大臣(科学技術政策担当)との意見交換	梶田会長 菱田副会長 高村副会長 小林アトバザール
11月7日(土)	北海道地区会議主催学術講演会「感染症との共存の現在と未来」	望月副会長
11月20日(金)	中部地区会議学術講演会「コロナ禍・豪雨災害：自然災害に向き合う」	高村副会長
11月21日(土)	中国・四国地区会議学術講演会「地域にある大学としての先端学術の振興と地域産業イノベーションへの貢献」	菱田副会長
11月26日(木)	記者会見(日学)	梶田会長 菱田副会長 望月副会長 高村副会長 小林アトバザール
11月28日(土)	学術フォーラム「新型コロナウイルス感染症コントロールに向けての学術の取り組み」	梶田会長
12月15日(火)	防災推進国民会議(Skype)	梶田会長

12月16日(水)	井上信治内閣府特命担当大臣(科学技術政策担当)への「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて(中間報告)」の手交、意見交換	梶田会長 菱田副会長 小林アトバヰャー
12月24日(木)	井上信治内閣府特命担当大臣(科学技術政策担当)との意見交換	梶田会長 菱田副会長 小林アトバヰャー
12月24日(木)	記者会見(日学)	梶田会長 菱田副会長 望月副会長 高村副会長 小林アトバヰャー
1月7日(木)	英国王立協会会長との会談(オンライン)	梶田会長 高村副会長
1月28日(木)	記者会見(日学)	梶田会長 菱田副会長 望月副会長 高村副会長 小林アトバヰャー
2月15日(月)	学術フォーラム「新たな地球観への挑戦—地球惑星科学の国際学術組織の活動と日本の貢献—」(ビデオ)	高村副会長
2月25日(木)	記者会見(日学・オンライン)	梶田会長 菱田副会長 望月副会長 高村副会長 小林アトバヰャー
2月25日(木)	日本オープンイノベーション大賞表彰式	梶田会長
2月27日(土)	学術フォーラム「危機の時代におけるアカデミーと未来」(オンライン)	梶田会長 菱田副会長 望月副会長 高村副会長

3月17日（水）	公開シンポジウム「日本学術会議と日本天文学会よりより良い連携のために」	梶田会長
3月23日（火）	講書始の儀（皇居）	梶田会長 菱田副会長
3月24日（水）	Gサイエンス学術会議2021（英国王立協会主催・オンライン）	梶田会長 菱田副会長

第2 会長談話

次の会長談話を公表した。

- 1 日本学術会議会長談話「東日本大震災10年と日本学術会議の責務」
(令和2年3月11日公表)

第3 幹事会声明

次の幹事会声明を公表した。

- 1 日本学術会議幹事会声明「日本学術会議会員任命問題の解決を求めます」
(令和3年1月28日公表)
- 2 日本学術会議幹事会声明「新型コロナウイルス感染症対策の検討について」
(令和3年2月9日公表)

第4 学術フォーラム

- 1 日本学術会議主催学術フォーラム「コロナとの共生の時代における分析化学の果たす役割」を令和2年11月11日（水）にオンラインにて開催した。
- 2 日本学術会議主催学術フォーラム「人口縮小と「いのちの再生産」ーコロナ禍を超えて持続可能な幸福社会へー」を令和2年11月25日（水）にオンラインにて開催した。
- 3 日本学術会議主催学術フォーラム「新型コロナウイルス感染症コントロールに向けての学術の取り組み」を令和2年11月28日（土）にオンラインにて開催した。
- 4 日本学術会議主催学術フォーラム「東日本大震災からの十年とこれからー58学会、防災学術連携体の活動ー」を令和3年1月14日（木）にオンラインにて開催した。

- 5 日本学術会議主催学術フォーラム「新たな地球観への挑戦—地球惑星科学の国際学術組織の活動と日本の貢献—」を令和3年2月15日（月）にオンラインにて開催した。
- 6 日本学術会議主催学術フォーラム「危機の時代におけるアカデミーと未来」を令和3年2月27日（土）にオンラインにて開催した。

第5 国際会議の開催

- 1 「第29回人工知能国際会議」を令和3年1月7日（木）～14日（木）、3月25日（木）にオンラインにて開催した。

第6 日本学術会議地区会議

- 1 北海道地区会議主催 学術講演会「感染症との共存の現在と未来」を令和2年11月7日（土）にオンラインにて開催した。
- 2 中部地区会議主催 学術講演会「コロナ禍・豪雨災害：自然災害に向き合う」を令和2年11月20日（金）にオンラインにて開催した。
- 3 中国・四国地区会議主催 学術講演会「地域にある大学としての先端学術の振興と地域産業イノベーションへの貢献」を令和2年11月21日（土）に愛媛県（オンラインで同時配信）にて開催した。

第7 慶弔等

1 慶事

令和2年秋の褒章受章者 令和2年11月3日公表

【紫綬褒章】

後藤 由季子（会員（第25-26期）、連携会員（第20期、第23-24期））

澤 芳樹（会員（第25-26期）、連携会員（第20期、第23-24期））

高橋 雅英（会員（第22-23期）、連携会員（第21期、第24-25期））

令和2年秋の叙勲受章者 令和2年11月3日公表

【瑞宝大綬章】

小宮山 宏（連携会員（第20期））

【瑞宝重光章】

酒井 健夫（連携会員（第22-23期））

【瑞宝中綬章】

- 大貫 惇睦 (連携会員(第 23-24 期))
岸本 健雄 (会員 (第 22-23 期)、連携会員(第 20-21 期、第 24 期))
後藤 俊夫 (会員 (第 20 期)、連携会員(第 22-23 期))
杉山 雄一 (会員 (第 20-21 期)、連携会員(第 22-23 期))
竹内 洋 (連携会員(第 20-21 期、第 22-23 期))
田中 成明 (会員 (第 20-21 期)、連携会員(第 22-23 期))
濱口 宏夫 (連携会員(第 20-21 期、第 22-23 期))
三品 昌美 (会員 (第 20-21 期)、連携会員(第 22-23 期、第 24-25 期))
米澤 明憲 (会員 (第 21-22 期)、連携会員(第 20 期、第 23-24 期))
若林 正丈 (連携会員(第 20 期))
渡邊 達夫 (連携会員(第 20-21 期))

日本学士院新会員

- 高田 康成 (元連携会員 (第20期))
金水 敏 (現連携会員 (25-26期) 、元連携会員 (第20期、第21-22期、第23-24期))
金出 武雄 (元連携会員 (第20期、第21-22期))
西澤 直子 (元会員 (第21-22期) 、元連携会員 (第20期、第23-24期))
宮下 保司 (元会員 (第20期、第21-22期))

第17回 (令和2年度) 日本学術振興会賞 令和 2 年12月17日公表

塩見 淳一郎 (連携会員(第 24-25 期))

※東京大学大学院工学系研究科教授、ナノスケール熱輸送の新たな制御性と設計性の創出

日本学士院賞 令和 3 年 3 月12日公表

石井 志保子 (元会員 (第 21-22 期)、元連携会員 (第 23-24 期))

※恩賜賞・日本学士院賞、特異点に関する多角的研究

一條 秀憲 (連携会員 (第 22-23 期、第 24-25 期))

※A S Kファミリーを基軸としたストレス応答機構の解明

岩井 一宏 (連携会員 (第 25-26 期))

※直鎖状ユビキチン鎖の発見とその炎症応答制御に関する研究

2 ご逝去

小柴 昌俊（こしば まさとし） 令和2年11月12日 享年94歳

名誉会員、元連携会員（第20-21期）、東京大学特別名誉教授

第6 その他

事務局人事異動

管理課長

旧：酒井 千冬

新：木村 友二

（令和3年4月1日付）



2021年4月21日

2020年10月から2021年4月の活動報告

第182回総会
第25期 日本学術会議会長
梶田 隆章

1

報告の内容

- 任命拒否問題への対応
- 日本学術会議のより良い役割発揮に向けて
- 学術フォーラム「危機の時代におけるアカデミーと未来」
- STSフォーラム (online)でのAcademy of Science Presidents' Meeting
- Gサイエンス学術会議共同声明
- 新型コロナウイルス感染症への学術の対応
- 会長談話、幹事会声明一覧
- 記者会見一覧

2

任命拒否問題への対応

- (10月2日 「第25期新規会員任命に関する要望書」の総会決定)
- 10月16日 菅内閣総理大臣に要望書を手交
- 10月23日 井上内閣府特命担当大臣(科学技術政策)に要望書を手交
- 1月28日 日本学術会議幹事会声明「日本学術会議会員任命問題の解決を求めます」
- (4月21日 総会において任命問題に対する対応を議論予定)

3

日本学術会議のより良い役割発揮に向けて

- 10月23日～ 井上内閣府特命担当大臣(科学技術政策)と意見交換(合計8回)
- 10月29日 小林傳司第一部幹事に日本学術会議アドバイザーに就任してもらい、会長等四役への補佐・助言をしてもらうことに
- 11月30日～ 会員意見聴取の実施
- 12月9日 分野別委員会委員長との懇談の実施
- 12月16日 日本学術会議幹事会において「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて(中間報告)」の取りまとめ
- 1月13日～ 会員・連携会員・学協会アンケートの実施
- 2月27日 日本学術会議主催 学術フォーラム「危機の時代におけるアカデミーと未来」の開催(次ページ参照)
- 3月4日～17日 会員との情報・意見交換会の実施(合計8回)
- 4月8日 日本学術会議幹事会において「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて(素案)」の取りまとめ
- 4月21、22日 総会にて「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」の議論予定

4

学術フォーラム「危機の時代におけるアカデミーと未来」

- 日時: 2021年2月27日(土) 14:00 - 17:00【オンライン】／参加者: 730名(事前申し込み)、常時約500名程度が視聴
- 基調講演「日本学術会議の現状と展望」 梶田 隆章(東京大学教授)
- 特別講演「日本学術会議に対する期待」 井上 信治 (内閣府特命担当大臣(科学技術政策))
- 講演「ナショナルアカデミーの役割-独立性と助言機能-」
Professor Daya Reddy (国際学術会議<ISC>会長)、Sir Adrian Smith (英国王立協会<the Royal Society>会長)、
武田 洋幸 (東京大学教授)
- 講演「ナショナルアカデミーへの期待と要望」
須藤 亮 (産業競争力懇談会専務理事、株式会社東芝・特別嘱託)、篠原 弘道 (NTT取締役会長)、
門田 守人 (日本医学会連合会長)、隠岐 さや香 (名古屋大学・教授)、平田 オリザ (四国学院大学教授、劇作家)
- パネル討論「ナショナルアカデミーと未来」
高村 ゆかり(東京大学教授)【モデレーター】
岩崎 渉(東京大学准教授)、松中 学(名古屋大学教授)、寺田佐恵子(東京大学、日本学術振興会特別研究員)、
梶田 隆章 (東京大学教授)、望月 眞弓 (慶應義塾大学特任教授)、
菱田 公一 (明治大学特任教授)、橋本 伸也(関西学院大学教授)

5

STSフォーラム Academy of Science Presidents' Meeting

- 主要各国アカデミーのリーダーが共有する科学的課題を討議
- 第17回STSフォーラム(Science and Technology in Society forum)において、日本学術会議が主催(2020年10月5日online開催)
- テーマ: Sustainable and Resilient Recovery from COVID-19
(新型コロナウイルス感染症からの持続可能でレジリエントな復興)
- 出席者: 日本学術会議会長と英国王立協会会長とが共同議長を務め、
合計23のアカデミーから27名の会長等が参加
- 討 議: 注目される発言としては、「持続可能のための科学は、自然科学と人文社会科学の真の融合が必須」、「偽情報への対抗として、科学への信頼向上がアカデミーの責務」、「すべての危機は我々が学ぶべき機会」等



6

Gサイエンス学術会議2021共同声明

- G7サミットに向けた科学的な政策提言
- 英国王立協会による「Gサイエンス学術会議2021」の主催（2021年3月24日online開催）
- G7各国アカデミーが共同で作成し、3月31日公表
- 共同声明の3テーマ



- (1) A net zero climate-resilient future – science, technology and the solutions for change (ネットゼロと気候変動影響に備えた未来—科学・技術と変化のための解決策)
— 亀山 康子連携会員が参加
- (2) Reversing biodiversity loss – the case for urgent action
(生物多様性の損失を食い止めるために – 早急な対策の必要性)
— 橋本 禪連携会員が参加
- (3) Data for international health emergencies: governance, operations and skills
(世界的な公衆衛生上の緊急事態のためのデータ: ガバナンス、オペレーション、スキル)
— 西山 慶彦第一部会員、宇南山 卓連携会員が参加

7

新型コロナウイルス感染症への学術の対応

- 新型コロナウイルス感染症に関する学術フォーラム・公開シンポジウム等を多数実施（次ページ参照）
(実施例)
 - ・学術フォーラム「新型コロナウイルス感染症コントロールに向けての学術の取り組み」(11月28日)
※日本医学会連合と共催
- 大規模感染症、特に新型コロナウイルス感染症に関する課題抽出、学術会議での審議連携、適切な情報発信、シンポジウム企画、関連する学協会との連携、国際協力に関する検討を行うため、幹事会の下にWGを設置(1月28日) ※武田洋幸第二部長が座長
 - ・日本学術会議の新型コロナウイルス感染症に対する取組について、HPにおいて情報発信
 - ・学術フォーラムのシリーズ化を企画
- 日本学術会議幹事会声明「新型コロナウイルス感染症対策の検討について」(2月9日)

8

新型コロナウイルス感染症に関する公開シンポジウム等(2020.10～)

2020.10.3	公開シンポジウム「複合災害への備え- withコロナ時代を生きる」
2020.10.11	公開シンポジウム「Withコロナの時代に考える人間の「ちがい」と差別 ～人類学からの提言～」
2020.11.11	学術フォーラム「コロナとの共生の時代における分析化学の果たす役割」
2020.11.20	中部地区会議主催学術講演会「コロナ禍・豪雨災害: 自然災害に向き合う」
2020.11.28	学術フォーラム「新型コロナウイルス感染症コントロールに向けての学術の取り組み」
2020.11.29	公開シンポジウム「COVID-19パンデミックを契機として考える日本の結晶学の現状と今後」
2021.1.13	公開シンポジウム「社会生活のデジタル改革」
2021.3.17	公開シンポジウム「新型コロナウイルス禍に学ぶ応用物理: 未来社会に向けて」
2021.3.21	公開シンポジウム「新型コロナウイルスパンデミック下での食料問題に農芸化学分野が果たす役割」
2021.3.24	公開シンポジウム「コロナ禍が加速する持続可能な社会の実現に向けた地球環境変化の人的側面研究の推進」
2021.3.28	公開シンポジウム「現代社会とアディクション」
2021.4.24	公開シンポジウム「くすりのエキスパートが語る“よくわかる新型コロナウイルスワクチン”」
2021.5.8	学術フォーラム「新型コロナウイルス感染症の最前線 - what is known and unknown # 1 新型コロナウイルスワクチンと感染メカニズム」
2021.6.20	公開シンポジウム「脳とところから見たWith/Postコロナ時代のニューノーマルの課題と展望1」
2021.6.27	公開シンポジウム「脳とところから見たWith/Postコロナ時代のニューノーマルの課題と展望2」

9

会長談話、幹事会声明一覧

- 「日本学術会議会員任命問題の解決を求めます」
日本学術会議幹事会声明(令和3年1月28日)
- 「新型コロナウイルス感染症対策の検討について」
日本学術会議幹事会声明(令和3年2月9日)
- 「東日本大震災 10 年と日本学術会議の責務」
日本学術会議会長談話(令和3年3月11日)

記者会見一覧

年月日	主な会見内容
令和2年10月29日	日本学術会議の活動と運営について 日本学術会議に関する学協会・大学等の声明等一覧
令和2年11月12日	日本学術会議の会員構成の考え方について 日本学術会議の役割:学協会との関係などについて 日本学術会議のよりよい役割発揮に向けた検討について
令和2年11月26日	日本学術会議の役割:提言等の発出と自己評価について 日本学術会議に関するQ&A 国際学術会議会長からの書簡
令和2年12月16日	日本学術会議のより良い役割発揮に向けて(中間報告)
令和2年12月24日	第25期発足後の日本学術会議の主な活動について フューチャー・アースからの書簡
令和3年1月28日	日本学術会議幹事会声明「日本学術会議会員任命問題の解決を求めます」 学術フォーラム「危機の時代におけるアカデミーと未来」
令和3年2月25日	「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」に関するアンケートについて(概要) 若手アカデミー意見
令和3年4月8日	日本学術会議のより良い役割発揮に向けて(素案) Gサイエンス学術会議2021 共同声明

日本学術会議総会報告

組織運営・科学者間の連携

(2020.10.1～2021.4.20)

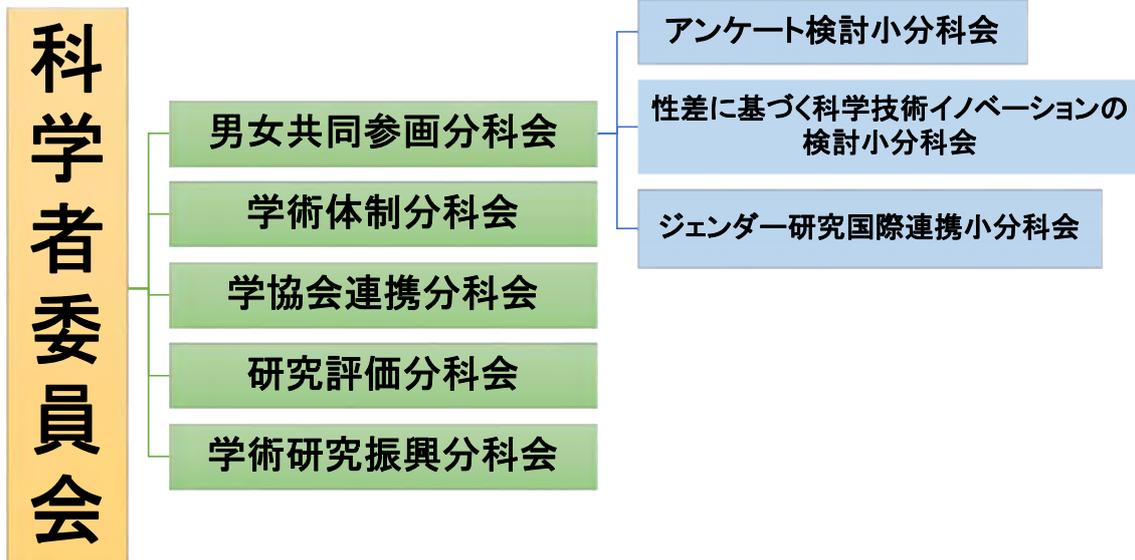
- 1 科学者委員会・同分科会
- 2 地区会議
- 3 地方学術会議
- 4 若手アカデミー
- 5 財務委員会

2021年4月21日
担当副会長 望月 眞弓

1. 第25期科学者委員会の構成

(分科会等の活動状況)

- 1) 科学者コミュニティに関する全体的課題の検討
- 2) 5分科会の課題の調整



1. 科学者委員会

(委員長:望月 眞弓)

■開催実績

◇第1回(2020.11.19)

- ・科学者委員会の今後の運営について
- ・地区会議関係事項について
- ・附置分科会の設置等について
- ・「協力学術研究団体の指定に係る必要な要件及び手続」の改正について

◇第2回～第6回 メール審議

- ・分科会・小分科会の設置について ほか

◇第7回(2021.4月)

- ・研究評価分科会提言案について

1-1. 男女共同参画分科会

(委員長:望月 眞弓)

●科学に関する男女共同参画の推進に関することを審議することを目的とする

女性活躍促進目標(30%)の達成に向けて

⑩大学・研究機関や学協会の実情を調査し、改善に向けて検討

ジェンダー関連分科会の24期までの活動を総括

⑩共通課題を整理するとともに、今後の課題を明確化する

学術におけるダイバーシティの推進(LGBTQ/障害者/外国籍など)の推進

⑩現状を調査・分析し、今後の課題を整理

2023年の夏に東京で開催を予定している国際女性史連盟主催の国際学会

●国内の研究者が多くの国々の研究者とネットワークを構築できるよう検討

1-1. 男女共同参画分科会

(委員長:望月 真弓)

■会議開催状況

◇第1回(2020.11.30)

役員の選出、25期の課題、アンケート検討小分科会の設置について

◇第2回(2021.2.10)

国際女性史連盟東京大会小分科会設置提案、性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会設置提案、アンケート小分科会、各部ジェンダー関係分科会の報告、公開シンポジウム(案)夫婦別姓に対するシンポジウム、第5次男女共同参画基本計画、第6期科学技術基本計画について

◇第3回(2021.2.23)

男女共同参画分科会ジェンダー研究国際連携小分科会の設置について

■シンポジウム等

◇公開シンポジウム「同性／別姓を選ぶ権利～市民と学術の対話から～」(2021.4.17)

※日本学術会議法学委員会ジェンダー法分科会主催、本分科会共催

1-1. 男女共同参画分科会

1-1-1. アンケート検討小分科会

(委員長:三成 美保)

■審議事項

- ①24 期に実施した全国的なアンケートの結果を分析する。
- ②分析結果を提言としてまとめ、発出する。
- ③データを適切に管理し、学術会議関係者及び研究者が利用できるように整理する。
- ④文系及び理系の学協会連合が実施したアンケート結果との比較分析を行い、情報を関係組織と共有する。

■会議開催状況

◇第1回(2021.1.23)

委員長の選出、副委員長、幹事決定、活動方針について、アンケート提言案の検討

1-1. 男女共同参画分科会

1-1-2. 性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会

(委員長: 渡辺 美代子)

■ 審議事項

- ①性差による科学の成果や効果を示すデータの収集
- ②性差研究による科学的エビデンスから導かれる課題の抽出
- ③上記に関係するジェンダー関連情報の収集と課題の抽出
- ④ジェンダーに基づく科学技術イノベーションの科学者コミュニティと社会への周知と啓発

■ 会議開催状況

◇第1回(2021.4.2)

委員長の選出、副委員長、幹事決定、活動方針について

1-2. 学術体制分科会

(委員長: 吉村 忍)

・学術の制度・振興等に関する諸問題を審議することを目的とする。

第6期科学技術・イノベーション基本計画のフォローアップ

- ・前期提言発出後に科学技術基本法が改正され、「イノベーションの創出」の概念が追加されたほか、第一条の「人文科学のみに係るものを除く」規定が削除され、法律及び基本計画の名称が変更された
- ・1部・2部・3部の部を超えた取組が一層重要となっている

研究インテグリティに関する検討

- ・学術分野においてオープン化、国際化が急速に進展する中で、研究インテグリティの観点から、国内外の現状調査、課題の整理、今後の対応方策について検討
- ・今後、関係機関のヒアリング等を実施予定

その他

- ・学術体制・学術法制の国際比較調査・課題の整理
- ・中長期的観点から、学術を学際的・文理融合的に推進するための在り方の検討に関する事

■ 開催実績

◇第1回(2021.2.4) 委員長の選出、副委員長、幹事決定、今期の活動方針 他

1-3. 学協会連携分科会

(委員長:米田 雅子)

・学協会連携分科会は、学協会と日本学術会議の連携の推進と、学協会の機能強化に関する諸課題を審議することを目的とする

連携

・日本学術会議と学協会の新たな連携体制づくりの検討

規程見直し

・学協会、学会連合、連携体等のあり方を検討するとともに、協力学術研究団体の規定の見直しを検討

学協会法人化

・学協会の法人化における諸課題の整理と学術団体にふさわしい法人形態の検討

1-3. 学協会連携分科会

(委員長:米田 雅子)

■会議開催状況

◇第1回(2020.12.2)

役員を選出について、学協会・学会連合と日本学術会議の連携のあり方について、今後の分科会の進め方について

◇第2回(2021.2.5)

「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて(中間報告)」での学協会・連合体と日本学術会議の連携のあり方について

協力学術研究団体

■協力学術研究団体

2,078団体(2021年4月現在)

■25期開始からの承認団体

7団体

■協力学術研究団体規程改正(24期)の運用

主な改正点:

(研究者の区分)その他、当該研究分野について、学術論文、学術図書、研究成果による特許等の研究業績を有する者

(機関誌)「複数の学協会が発行する合同機関誌」「当該団体が編集し出版社等が発行する機関誌」を個別審査の上で、当該団体の機関誌とみなす。

1-4. 研究評価分科会

(委員長:武田 洋幸)

■審議事項

- ①研究評価のあり方についての全体的検討
- ②関連する過去の提言等のフォローアップ
- ③国内外の研究評価のあり方についての調査
- ④分野別研究評価のあり方についての検討
- ⑤若手支援としての研究評価のあり方についての検討に係る審議に関すること
- ⑥24期の審議結果を提言としてまとめる

■会議開催状況

◇第1回(2021.1.19)

委員長の選出、副委員長、幹事決定、活動方針について

◇第2回(2021.3.27) ※メール審議

提言案「学術の振興に寄与する研究評価を目指して一定量の評価手法及び資源配分へのその利用の問い直しを中心にー」について

1-5. 学術研究振興分科会

(開催実績なし・委員長未定)

◆24期「研究計画・研究資金検討分科会」を再編

➤学術研究振興に関する課題を検討

- 重要な学術研究の計画に関する検討
- 研究資金(科研費・寄付金等)に関する諸問題の検討
- 研究評価基準に関する問題の整理と課題の抽出

2. 地区会議

■地区会議の活動

- 科学者との懇談会の開催・学術講演会等の開催・地区会議ニュース等の発行・地域社会の学術の振興に寄与することを目的とする事業など

■全7地区会議(学術講演会等の実施)

- (1)北海道
- (2)東北(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)
- (3)関東(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県)
- (4)中部(富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)
- (5)近畿(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)
- (6)中国・四国(鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県)
- (7)九州・沖縄(福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)

◆地区会議(学術講演会 2020年10月～2021年3月)



北海道地区

演題:「感染症との共存の現在と未来」
 開催:2020年11月7日(土)
 形式:オンライン開催
 挨拶:望月副会長
 参加者:73名



中部地区

演題:「コロナ禍・豪雨災害:自然災害に向き合う」
 開催:2020年11月20日(金)
 形式:オンライン開催
 挨拶:高村副会長
 参加者:178名



中国・四国地区

演題:「地域にある大学としての先端学術の振興と地域産業イノベーションへの貢献」
 開催:2020年11月21日(土)
 形式:愛媛大学での開催+オンライン配信
 挨拶:菱田副会長
 参加者:86名

- ・コロナ禍の情勢を踏まえ、いずれも**オンラインもしくはハイブリッド(会場+オンライン配信)**で開催。
- ・**参加者数**は、地区によっては開催県が異なるため単純比較は困難であるが、**昨年度に比べいずれも増加**。(北海道地区:69名→73名、中部地区66名→178名、中国・四国地区:65名→86名)
- ・アンケートでも、**遠方からの参加が容易となったとの好評価**がある一方、一部で**接続に問題**があるといった声もあった。

3. 地方学術会議

◆地方学術会議

地方創生に関する取組を従来より強化するため、平成30年度から地方学術会議の開催を決定開催地の企業、地方自治体等との交流を図り、地方における産官学の連携強化を図る

◆地方学術会議委員会

25期:第1回開催(2021.2.15.)

今期開催に当たっての検討

2022年(令和4年)1月～3月頃:九州・沖縄地区

10月末～11月頃:東北地区

※ 地区会議主催行事との重複などを考慮して開催

4. 若手アカデミー

●若手アカデミー(25期は49名、うち特任連携会員6名)

45歳未満である会員又は連携会員のうちから、積極的な参加意思を持つ者(若手アカデミー運営要綱)

●8つの分科会による活動

学術の未来を担う人材育成分科会、学術界の業界体質改善分科会、越境する若手科学者分科会、国際分科会、情報発信分科会、地域活性化に向けた社会連携分科会、イノベーションに向けた社会連携分科会、GYA総会国内組織分科会

●24期に引き続き、科学者委員会・同附置委員会(男女共同参画分科会、学術体制分科会、学協会連携分科会、研究評価分科会、学術研究振興分科会等)に若手アカデミーから委員を選出

●日本学術会議若手アカデミー公開ワークショップ

「若手科学者が拓く地域と科学の関係」を2021年3月1日に開催

4. 若手アカデミー (体制について)

幹事団



代表
岩崎 渉



副代表
安田仁奈



幹事
小野 悠



幹事
松中 学

各分科会 委員長



国際分科会
入江直樹



GYA 総会
国内組織分科会
新福洋子



学術界の業界体質
改善分科会
川口慎介



地域活性化に向けた
社会連携分科会
加藤千尋



学術の未来を担う
人材育成分科会
平田佐智子



越境する若手科学者
分科会
石川麻乃



情報発信分科会
高田知実



イノベーションに向けた
社会連携分科会
高瀬堅吉



5. 財務委員会報告

(委員長:望月眞弓)

■財務委員会の設置

■日本学術会議の根幹に係わる審議関係経費について、予算の逼迫に対処するため、執行部として日本学術会議の予算執行状況に深く関与する幹事会附置委員会として財務委員会を2020年10月に設置。構成員は3副会長及び各部の部長の計6名。

■2021年度予算配分

- 審議関係予算は、2020年度とほぼ同額が措置(改選に伴う臨時審議経費を除く)。
- 2021年度の審議関係経費については、2021年3月の幹事会懇談会で報告の上、配分済。

■2021年度予算執行に関する体制等

■予算執行の管理体制

各部の予算計画・執行管理は各部に委ねる。審議関係経費の配分区分毎に責任者を設置し、責任者、事務局間で緊密な連携を図るとともに、予算執行状況を財務委員会においても注視し、情報の共有を図る。

特に新型コロナウイルス感染症の影響等により、予算計画に比して、予算執行予定額の大幅な増減が見込まれる等の場合には、速やかに情報共有を図るとともに、予算の逼迫を防ぐ。

副会長報告
科学と社会委員会、広報委員会および
課題別委員会の
活動状況に関する報告
令和2年10月～令和3年3月の活動



令和3年4月21日

科学と社会委員会担当副会長
菱田 公一

学術会議と社会との関係

○日本学術会議を取り巻く社会的情勢を踏まえ、改めて、日本の科学者の代表機関として、各国のアカデミーや国際学術団体等と連携し、諸科学の一層の向上発達を図り、社会が直面する諸課題の解決に貢献するという日本学術会議の役割をよりよく果たすという観点から、日本学術会議の活動のありかたについて検討に着手（令和2年11月12日、記者会見）

○令和2年12月16日にそれまでの検討状況をとりまとめ、「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて（中間報告）」を幹事会で決定・公表

< 中間報告のポイント >

- ①提言機能の強化
 - ・ 中長期的視点、俯瞰的視野、学術分野横断的な審議の徹底等
- ②対話を通じた情報発信の強化
 - ・ 双方向コミュニケーションの強化、政府、立法府、国民への発信力の向上、科学的助言の社会への浸透等
- ③会員選考プロセスの透明性の向上
 - ・ 会員選考プロセスの開示と選考委員会の透明性向上等
- ④国際活動の強化
 - ・ 国際活動についての広報・情報発信の強化等
- ⑤事務局機能の強化
 - ・ DXに対応した事務局人材の強化等
- ⑥設置形態
 - ・ 国の機関と国の機関以外の設置形態について論点を提示



特に社会との関係においては、できるところから先行して着手。

1. 提言機能の強化

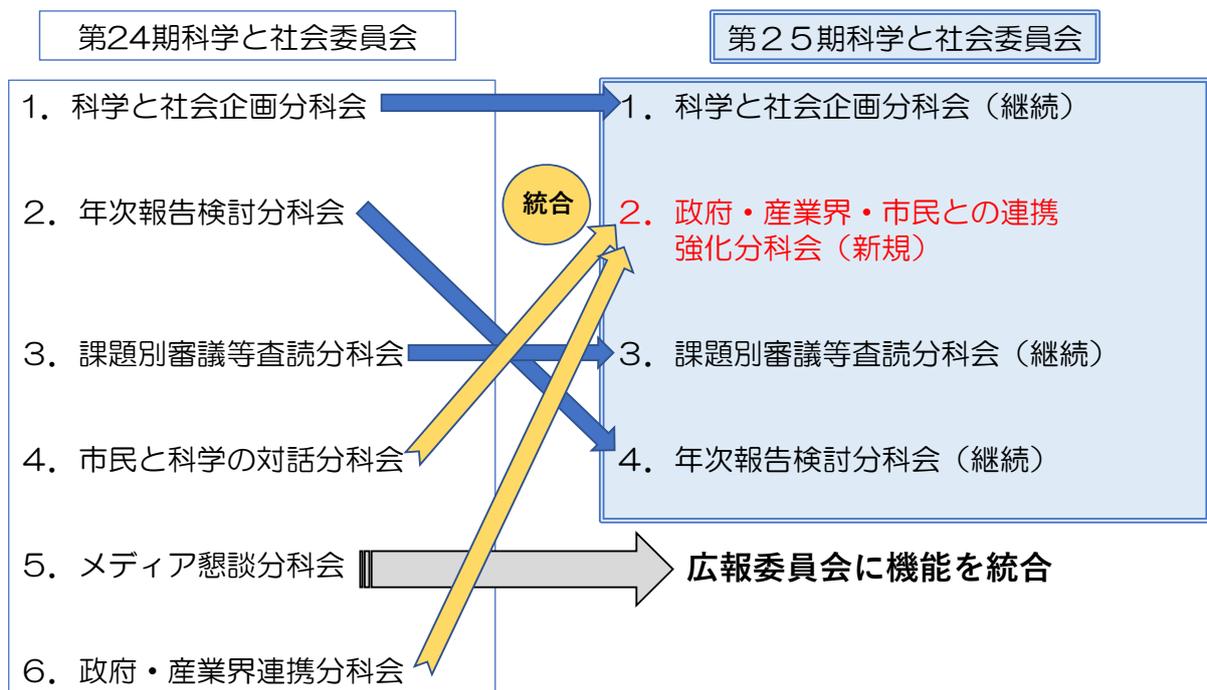
○自動運転、DX、SDGs等、特に社会的な関心が高く、重要な課題について「課題別委員会」を積極的に設置し、学術分野を横断して検討する体制を構築。

	委員会名	設置時期	委員数
1	自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会	令和2年12月24日	23名
2	オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会	令和2年11月26日	22名
3	学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会	令和3年1月28日	11名
4	フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会	令和2年10月29日	25名
5	防災減災学術連携委員会	令和2年10月2日	23名
6	人口縮小社会における問題解決のための検討委員会	令和2年10月3日	10名
7	大学教育の分野別質保証委員会	令和3年3月25日	16名

2. 社会との双方向のコミュニケーションの強化

○社会と科学委員会の体制見直し、これまで、対象に応じて政府・産業界、市民で別々だった分科会を統合し、窓口を一本化するとともに、当該分科会が主体的に対話を実施する方向で改革。

○広報機能を広報委員会に一本化



科学と社会委員会の取組み方針

- ・提言のあり方について議論する。
- ・学術会議活動とSDGsの関係を議論する。（SDGsへの貢献、SDGsから学術への貢献等）
- ・緊急時における学術会議の対応をどうするかを検討する。
- ・提言を関係部署に説明に行くことを検討する。

科学と社会委員会分科会の審議事項

科学と社会企画分科会

- ・学術の未来像の社会との関係、
- ・科学と社会委員会から検討を求められたことに係る審議

政府・産業界・市民との連携強化分科会

- ・文部科学省等の省庁及び日本経済団体連合会等の産業界との懇談の企画及び実行
- ・サイエンスカフェ、サイエンスアゴラ及びその他市民との対話に向けた企画の検討

課題別審議等査読分科会

- ・勧告、要望及び声明並びに課題別委員会及び幹事会附置委員会が作成する提言及び報告の草案の査読

年次報告検討分科会

- ・年次報告書の執筆・編集

3. 広報機能の強化

- 学術会議における広報機能の一元化
→国内外情報発信強化分科会を新規設置。学術会議関係各所の情報を集約・共有し、国内・海外への情報発信の検討の一元化
- 一般向けのわかりやすい広報発信を指向
→ホームページの改善、学術会議Q&Aの作成、「学術の動向」紙面の改善

第24期

広報委員会

「学術の動向」編集分科会

ホームページ編集分科会

国際発信推進分科会

科学と社会委員会
メディア懇談分科会

第25期

広報委員会

「学術の動向」編集分科会（継続）

委員長：所千晴（第三部会員）
・「学術の動向」の企画及び編集
・日本学術協力財団の編集委員会と協力

国内外情報発信強化分科会（新規）

委員長：狩野光伸（第二部会員）
・日本学術会議の活動に係る国内・海外への情報発信
→広報委員会に加え、幹事会（各部）、国際委員会、若手アカデミーより委員を参集。**広報に係る学術会議各所間の情報の集約・共有・一元的検討を行う。**

具体的な取組み



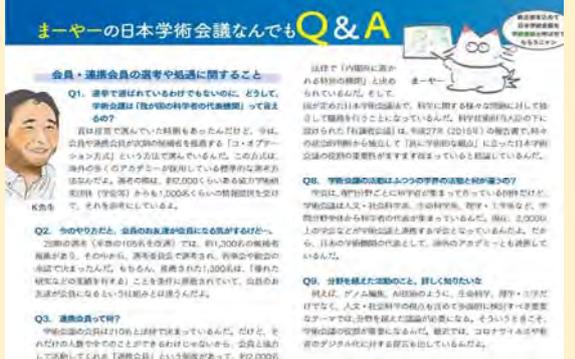
榎田隆章 日本学術会議会長インタビュー「日本学術会議の役割と第25期の目指す方向について」

学術会議ホームページ

- 動画の作成・掲載
 - ・榎田会長就任挨拶
 - ・日本学術会議会長談話「東日本大震災10年と日本学術会議の責務」
 - ・榎田会長インタビュー「日本学術会議の役割と第25期の目指す方向について」
- 新型コロナ特設ページの作成
 - ・学術会議の新型コロナに関する情報の一元化（関連シンポジウム、分科会による審議状況、これまでの取組）

日本学術会議パンフレット（第25期）

一般向けに学術会議の組織・活動について親しみやすいQ&Aの形で説明



まーやーの日本学術会議なんでもQ&A

会員・連携会員の選考や活動に関すること

Q1. 選挙で選ばれているわけでもないのに、どうして、学術会議は「我が国の科学者の代表機関」って位置づけなの？

Q2. 今のやりかただと、会員の乱雑が危惧される気がするけど...

Q3. 連携会員って何？

学術の動向（学術会議は編集協力）

- ・紙面構成の改善（レイアウト変更による文章の高密度化、レジュメの掲載）
- ・新企画「日本学術会議を知る」の開始
（様々な識者が学術会議に関する多様な意見を寄稿。初回である2021年4月号は吉川弘之元会長より）



4. 情報関係の体制強化

実施項目	内容
1 庁舎内のネットワーク再構築・Wifiの充実	すべての会議室・執務室に有線LAN・無線wifiを設置し、オンライン開催が可能に。
2 SINET（学術情報ネットワーク）への接続	日本全国の大学、研究機関等の学術情報基盤として、国立情報学研究所が構築、運用中の情報ネットワーク。大学・研究機関の種々の資源にアクセスでき、学術会議内での委員会の御審議や提言作成の際に利用可能に。
3 eduroam（国際学術無線LANローミング基盤）の導入	会員・連携会員が本務のIDにより日学無線LANシステムにアクセス可能に。
4 Zoom会議、Zoomウェビナーの導入	オンライン会議、オンラインシンポジウム等の開催がよりスムーズに。
5 クラウド・コンテンツ・マネジメントBOXの導入	委員会等で蓄積したデータを会員連携会員等で相互に利活用可能に。 （準備が整い次第、運用開始の予定）
6 オンライン対応機材の導入	講堂機器やPCの入替え、シンポジウム等オンライン配信機材
7 情報関係のスタッフの充実化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上席学術調査員の配置 ・ 情報対応職員（常駐）の配置 ・ オンライン配信スタッフ（非常駐）の配置

日本学術会議 国際活動報告



2021年4月

第25期 国際活動担当副会長 高村ゆかり



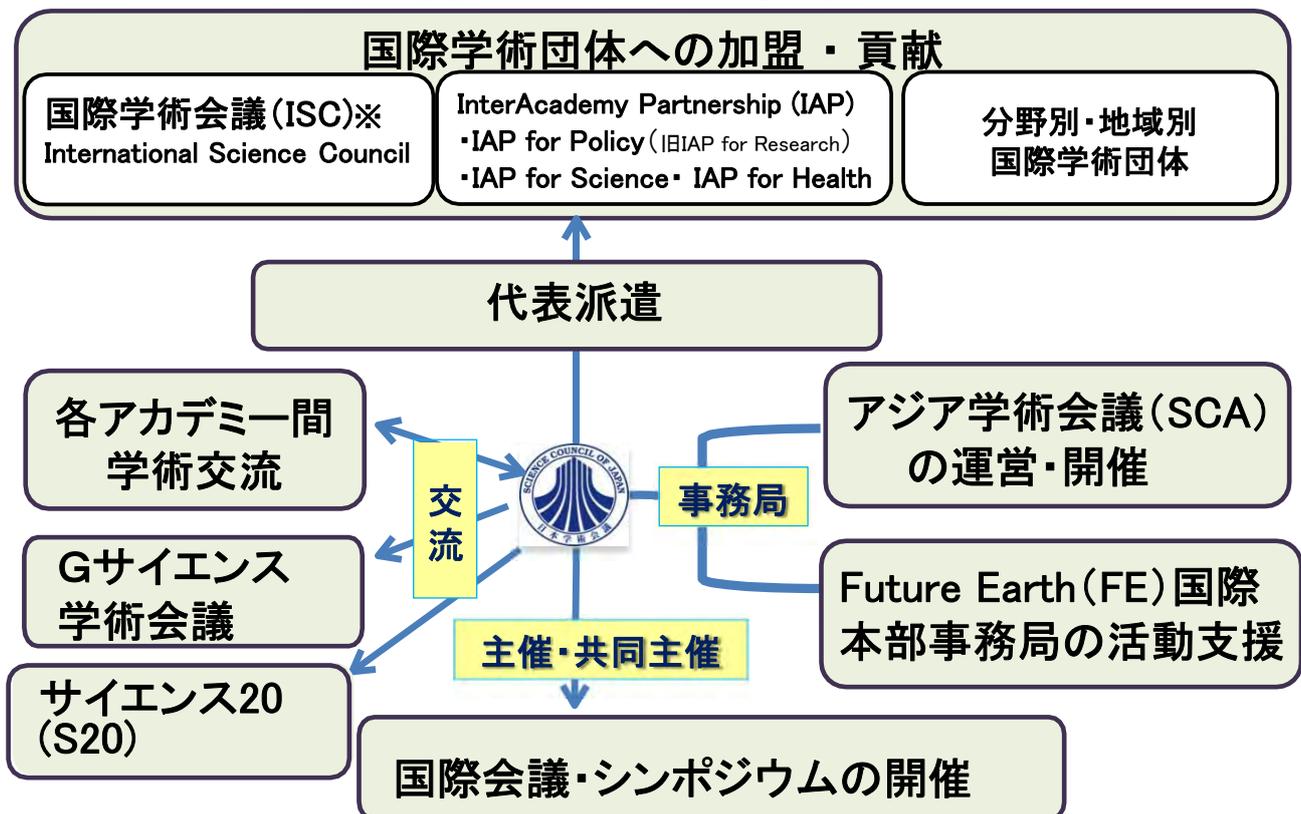
第25期の活動方針

日本学術会議のより良い役割発揮に向けた検討を踏まえ、
国際活動のさらなる発展を目指す

1. 地球規模課題等への対応について、各国アカデミーや国際
学術団体等との交流や連携強化
 - ✓ 国際学術会議(ISC)への積極的参画や、IAP等加入国際
学術団体等に対するより一層の貢献
 - ✓ Gサイエンス学術会議やサイエンス20(S20)等における
各国アカデミーとの連携強化
 - ✓ 次世代科学者の参加機会の創出・拡大
2. アジア地域におけるリーダーシップの発揮
 - ✓ アジア学術会議(SCA)の運営・開催等
3. 国内外に向けた情報発信の強化
 - ✓ 日本学術会議の国際活動、その成果のわかりやすい発信 ¹



国際活動の全体像



※国際科学会議 (International Council for Science: ICSU) 及び国際社会科学評議会 (International Social Science Council: ISSC) の統合により、2018年7月発足

2

個別の報告内容

1. 各国アカデミーとの連携・交流(①Gサイエンス学術会議/
②S20/③APM会合 /④国際人権ネットワーク)
2. 加入国際学術団体等への貢献(①代表派遣/②ISC/③IAP)
3. 国際学術会議の共同主催及び後援
4. 国際学術会議の主催(持続会議)
5. アジア学術会議(SCA)の運営
6. フューチャー・アースの国際的展開
7. 国内外への情報発信



3

1. 各国アカデミーとの連携・交流①

● Gサイエンス学術会議(2021) への対応

G7参加各国アカデミーから各国政府首脳に対する科学的な政策提言

- ✓ 英国王立協会(Royal Society)主催により、オンラインでGサイエンス学術会議(2021年3月24日)及び、それに先立ち専門家会合を開催
- ✓ 会長及び国際活動担当副会長、各テーマの専門家が参画



4



Gサイエンス学術会議(2021) 共同声明の3テーマ

(1) A net zero climate-resilient future - science, technology and the solutions for change (ネットゼロと気候変動影響に備えた未来—科学・技術と変化のための解決策)

- 亀山康子連携会員が参加
- 2050年までにネットゼロを実現するためのロードマップの作成を行うことや、政府開発投資の必要性、開発途上国へのネットゼロ達成アプローチ等について提言

(2) Reversing biodiversity loss - the case for urgent action

(生物多様性の損失を食い止めるために—早急な対策の必要性)

- 橋本禅連携会員が参加
- 生物多様性の新たな評価基準の設置と生物多様性保護のための財源の確保等により、分野横断的かつ国際的な解決策を講じるよう提言

5



(3) Data for international health emergencies: governance, operations and skills (世界的な公衆衛生上の緊急事態のためのデータ:ガバナンス、オペレーション、スキル)

- ー 西山慶彦第一部会員、宇南山 卓連携会員が参加
- ー 新型コロナウイルス感染症の世界的流行によりデータ共有の重要性が認識されたと同時に課題が浮き彫りとなったことを受け、公衆衛生上の緊急事態においてプライバシーを保護しつつ、データを安全に共有、利用するためのデータガバナンスの仕組みを国際的に強化・構築することを提言

Gサイエンス学術会議(2021)共同声明公表後の動き

- ✓ 3月31日、英国王立協会の公表にあわせ日本学術会議HPでも共同声明及び概要を公表
- ✓ 4月2日、井上科学技術担当大臣が、記者会見にて共同声明の公表を報告
- ✓ 4月8日、日本学術会議第25期幹事会記者会見にて公表を報告



6

1. 各国アカデミーとの連携・交流②

● サイエンス20(S20) 2020への対応

S20参加各国の政府首脳に対する科学的な政策提言

- ✓ サウジアラビア アカデミーが2020年9月26日にオンラインで主催
- ✓ 共同声明を公表、11月に開催されたG20サミットへ提出
- ✓ 国際活動担当副会長及び複数のテーマ専門家が参画
- ✓ 会議テーマ: Foresight: Science for Navigating Critical Transitions
(展望: 重大な転換へと導くための科学)

- (1) Future of Health: Promoting wellbeing and expanding personalized healthcare
(健康の未来: 福利の促進と個人の健康管理の拡大)
- (2) Circular Economy: Holistic Solutions for our Environment
(循環型経済: 私たちの環境に対する総体的解決策)
- (3) Digital Revolution: Achieving Universal Connectivity and Smarter Communities
(デジタル革命: ユニバーサルなつながりによりスマートなコミュニティの実現)
- (4) Connecting the Dots: from Science to Action
(点をつなげて: 科学から行動へ)



7

Science 20(S20)2021

- イタリア・リンチェイ国立アカデミー (Accademia (Nazionale) dei Lincei)
主催 (2021年9月22～24日予定)
- 会議テーマ: Pandemic preparedness: the role of science
(パンデミックへの備え: 科学の役割) (仮訳)
- 日学からの担当専門家:
 - 秋葉澄伯連携会員 (弘前大学特任教授)
 - 郡山千早連携会員 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科教授)

Social Sciences and Humanities (SSH20)2021

イタリア・リンチェイ国立アカデミーの意向により、本年はS20に併せて社会科学・人文科学系アカデミーによるSSH20を同時開催

- 会議テーマ: Crises: economy, society, law and culture
(危機: 経済、社会、法、文化) (仮訳)
- 日学からの担当専門家:



- 城山英明連携会員 (東京大学大学院法学政治学研究科教授)

8

1. 各国アカデミーとの連携・交流③

- 第13回 Academy of Science President's Meeting
 - ✓ STSフォーラム (科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム)
第17回年次総会の分野別会議として、日本学術会議が主催
(2020年10月5日)
 - ✓ テーマ: Sustainable and Resilient Recovery from COVID-19
(新型コロナウイルス感染症からの持続可能でレジリエントな復興)
 - ✓ 概要:
 - ・ 23のアカデミーより会長級の27名が参加、英国王立協会会長と日本学術会議会長が共同議長を務めた
 - ・ 注目される発言としては、「持続可能のための科学は、自然科学と人文社会科学の真の融合が必須」、「偽情報への対抗として、科学への信頼向上がアカデミーの責務」、「すべての危機は我々が学ぶべき機会」等



9

1. 各国アカデミーとの連携・交流④

- 国際人権ネットワーク(IHRN:International Human Rights Network)への対応
 - ✓ 米国の全米科学アカデミー(NAS:National Academy of Sciences)傘下の国際組織
 - ✓ IHRN配布のアクションアラートに対して、「国際委員会 科学者に関する国際人権対応分科会」において嘆願書発出の可否を審議(24期 審議件数:13件、うち調査継続:1件)
 - ✓ 24期で決定された新基準「科学者等に関する国際的な人権問題の審査基準」に基づき審議予定



10

2. 加入国際学術団体等への貢献①

- 代表派遣
 - ✓ 加入する44の国際学術団体等に対し、日本学術会議から代表者を派遣、ナショナル・アカデミーとして活動
 - ✓ 新元素113番の命名権の獲得(ニホニウムと命名)やGSSP(国際境界模式層断面とポイント)への千葉セクション(チバニアン)の承認にもつながる
 - ✓ 代表派遣計画(2020年度)の実施結果
 - ・ 28会議に48人がオンライン参加(総会/理事会等16件、その他会議 12件)※新型コロナウイルス感染症の影響で当初計画の中止等あり
 - ✓ 代表派遣計画(2021年度)の実施状況
 - ・ 37件58人の派遣を決定(総会・理事会等19件、その他会議 18件)



11

2. 加入国際学術団体等への貢献②

● 国際学術会議（ISC）への参画

- ✓ ISC常設委員会「科学における自由と責任の委員会」
(CFRS: Committee for Freedom and Responsibility in Science)
 - ・ 白波瀬佐和子第一部会員が第1回委員会(2019年11月)より参加
- ✓ ISC共催プロジェクト「都市環境の変化と健康委員会」
(UHWC: Urban Health and Wellbeing Committee)
 - ・ 中村桂子連携会員が参加(任期2020年6月～)
- ✓ ISC臨時総会: 国際担当副会長が出席(2021年2月オンライン)
定款改正審議と本年10月の理事会選挙に向けた選挙委員会委員選出
- ✓ ISC総会: 会長、国際担当副会長等が出席予定(2021年10月オンライン)、ISC理事会役員の変更がなされる予定¹²



2. 加入国際学術団体等への貢献③

● IAP (InterAcademy Partnership)への参画

- ✓ IAP for Policyへの参画
 - ・ 日本学術会議は理事アカデミーとして参画
(任期 2017年～2022年 ※2019年度の定款改正で2020年から延長)
 - ・ 理事会(Board Meeting)に国際活動担当副会長がオンライン出席
(2020年11月/2021年3月)
- ✓ IAP声明作成のためのワーキンググループへの日本学術会議からの専門家派遣や声明に対する支持表明
 - ・ 2021年1月 Protection of Marine Environments (海洋環境の保護)
 - ・ 2021年2月 Regenerative Medicine (再生医療)
- ✓ 新たなワーキンググループ「Biodiversity and Climate Change (生物多様性と気候変動)」への日本学術会議からの専門家推薦



- ✓ IAPを通じたCOVID-19への対応及び連携
 - IAPコミュニケ「高等教育における不平等拡大へのCOVID-19の影響の是正」の公表(2021年3月18日)
 - IAP for Policy理事会からの問題提起により、起草開始
 - IAP執行委員会(IAP全体の会長・IAP-Science, Policy, Healthそれぞれの共同議長、全7名で構成)により取りまとめ
 - COVID-19対応に関するIAP Ad-hoc Advisory Committeeへの日本学術会議からの委員就任を通じた途上国への助言(秋葉澄伯連携会員)
 - 健康の不平等是正に関する各国のケーススタディー集の査読への協力(WHO等も後援)(郡山千早連携会員)



3. 国際学術会議の共同主催及び後援

● 共同主催国際会議の主催

- ✓ 2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により延期されていた「第29回人工知能国際会議」(2021年1月)をオンラインにて開催
- ✓ 2021年度共同主催国際会議1件の後援を決定

● 国際会議誘致・開催貢献賞の受賞

- ✓ 2019年度に共同主催した「地球科学・リモートセンシング国際シンポジウム2019(2019年7月@横浜)」、「第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019(2019年9月@京都)」、「第17回国際義肢装具協会世界大会(2019年10月@神戸)」が、2021年1月27日に日本政府観光局から国際会議開催貢献賞を受賞



4. 国際学会議の主催

● 「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2020」

- ✓ テーマ： グローバル時代の包摂を考える
－COVID-19 後の持続可能な社会－
- ✓ 日 程： 2020年9月3日、4日（オンライン開催）
- ✓ 概 要： ・「アジアの挑戦と日本の役割」と「地球規模の挑戦と学術の役割」のサブ・テーマによる発表とディスカッション
・ 社会政策、社会学、政治学などの社会科学分野、自然科学や環境学分野までの幅広い国内外の研究者9名（ダヤ・レディISC会長、エリサ・ライスISC副会長他）が登壇
・ 企画運営分科会委員長は白波瀬佐和子第一部会員
・ 一般の視聴者数は1日目は約250名、2日目は約130名
外国からの視聴者数は約40名

16



● 「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2021」

- ✓ 国際委員会において、25期全体の傘となるテーマを審議し、「COVID-19後の持続可能な社会に向けた変革」を基調に、例年の会議テーマを検討
- ✓ 2021年度の会議テーマは、「カーボンニュートラル/ネットゼロ」を予定
- ✓ 検討のポイント：
 - － 地球規模課題、分野横断的テーマ
 - － 2050年カーボンニュートラルの宣言（2020年10月首相所信表明演説）や2021年11月の英国COP26の開催を踏まえ、今取り上げる必然性の高いテーマ
- ✓ 今後は、持続会議分科会委員長が中心となり、分科会において企画及び実施準備

- ✓ 開催時期等の詳細は、今後ニュースメール等でお知らせ

17



5. アジア学術会議(SCA)の運営



- ✓ 日本学術会議が事務局を務め(事務局長:澁澤栄連携会員)、18か国・地域の32機関が加盟。毎年度、各国持ち回りで会議を開催
- ✓ 2021年は、5月13日～15日に中国・広州にて、現地及びオンラインのハイブリット方式により、「The Age of New Materials: Innovation for Sustainable Society(ニューマテリアルの時代:持続可能な社会のためのイノベーション)」をテーマに第20回アジア学術会議を開催予定
- ✓ 日本学術会議からは、会長、国際担当副会長、基調講演を務める白波瀬佐和子第一部会員、セッションで共同議長を務める澁澤栄連携会員がオンラインで出席予定



第19回アジア学術会議参加者集合写真



18

6. フューチャー・アースの国際的展開

日本学術会議は、5か国の国際本部事務局の一翼である日本ハブ事務局の推進役として機能

- ✓ 「フューチャー・アース評議会」(25期以降計7回開催)へ参加
 - 国際活動担当副会長(日本ハブを支えるファウンダーの代表)がオンラインで参加
 - 他の評議会メンバーとともに、新たな事務局体制を含む今後の活動について議論・検討を進めている
- ✓ 新たなフューチャー・アース事務局体制への応募
 - 日本がグローバル・セクレタリアット・ハブに応募することについて、日本学術会議がその一角を担うことを決定



19

7. 国内外への情報発信

- ✓ 国際委員会と加入国際学術団体国内対応委員会との連携強化、国内外に発信すべき情報の共有
- ✓ 加入国際学術団体の活動やその成果を、国民にわかりやすく情報発信するための方策の検討
 - 国際学術団体の概要や活動成果のHP掲載を検討
 - 2021年2月開催の学術フォーラム「新たな地球観への挑戦－地球惑星科学の国際学術組織の活動と日本の貢献－」はモデルとなる事例
 - 国際学術団体調査票の記載事項を見直すとともに、HP上の、よりアクセスしやすい場所に掲載 等
- ✓ 日本学術会議のCOVID-19への対応状況を、ISC及びIAPのポータルサイトや日本学術会議HP等を通じ英語で発信
- ✓  COVID-19に関し、各国アカデミー（独、英、伊等）と情報や意見を交換

第一部報告 第182回総会（2021年4 月21-23日）

第一部役員
部長：橋本伸也
副部長：溝端佐登史
幹事：小林傳司
幹事：日比谷潤子

第一部の組織 分野別委員会（10）・分科会（78）

分野別委員会	分科会数
言語・文学委員会	4
哲学委員会	5
心理学・教育学委員会	12 (※)
社会学委員会	9
史学委員会	10
地域研究委員会	9
法学委員会	9
政治学委員会	5
経済学委員会	6
経営学委員会	5
第一部直接統括	4

(※) 新規分科会の設置を第311回幹事会に付議予定。承認されれば13分科会となる予定。

第一部の運営体制

- 部会：年3回を予定
- 役員打ち合わせ：随時
- 拡大役員会：2-3カ月に1度（部役員+分野別委員長）
- 第一部が直接統括する分科会
 - ①国際協力分科会
 - ②人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会
 - ③人文・社会科学基礎データ分科会
 - ④総合ジェンダー分科会

第25期の方針（案）

- ① 会員任命問題の解決をめざして四役、幹事会、第二部、第三部との強固な連携のもとで粘り強い働きかけを継続します。
- ② 改正科学技術・イノベーション基本法、第6期基本計画のもとでの人文・社会科学の振興策についての審議・具体化を進めます。
- ③ 「日本学術会議のより良い役割発揮」をめぐる議論について、部の特性を生かしながら積極的に参画します。
- ④ 部における分野別委員会・分科会体制及び科学的助言活動のあり方についての検討を進めます。

前回総会以降の活動①

- 会員任命問題への取り組みと特任連携会員任用について
→4月8日付幹事会文書「特任連携会員任命に関する報道について」参照
- 改正科技・イノベ法下での人文・社会科学振興策についての議論→拡大役員会および人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会で検討
- 部附置分科会、分野別委員会合同分科会の設置による広い視野に立った分野横断的審議活動のための体制構築の準備（アジア研究、人文社会基礎データ、デジタル人文学など）

前回総会以降の活動②

公開シンポジウムの取り組み

年月日	主催分科会等	タイトル
2020.10.11	地域研究委員会、文化人類学分科会、多文化共生分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類学分科会	Withコロナの時代に考える人間の「ちがい」と差別～人類学からの提言～
2020.10.18	史学委員会、中高大歴史教育に関する分科会	大学入試改革と歴史系科目の課題
2020.10.31	法学委員会	人・移動・帰属 変容するアイデンティティ
2020.11.7	心理学・教育学委員会 排除・包摂と教育分科会	すべての市民に無償の普通教育を！—日本学術会議分科会提言からの問題提起—
2020.12.3-4, 12.8	地域研究委員会 アジアの地域協力と学術的ネットワーク構築分科会、経済学委員会	世界戦争100年と地域統合、新国際秩序をどう作るか？
2020.12.5	哲学委員会	身体・社会・感染症—哲学・倫理学・宗教研究はパンデミックをどう考えるか—

前回総会以降の活動②

公開シンポジウムの取り組み

年月日	主催分科会等	タイトル
2020.12.19	史学委員会、歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会	続発する大災害から史料を守るー現状と課題ー
2021.1.23	社会学委員会	メディア学の使命ージャーナリズム研究からプラットフォーム研究まで
2021.2.8	心理学・教育学委員会	胎児期からの脳発達：発達保育実践政策学の追究
2021.3.2	史学委員会博物館・美術館等の組織運営に関する分科会	今後の博物館制度を考える～博物館法改正を見据えて～
2021.3.13	政治学委員会政治過程分科会	デジタル化時代の選挙ー電子投票の現状・課題・未来ー
2021.3.28	地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会	新しい地理教育のスタートに向けて
2021.4.17	法学委員会ジェンダー法分科会	同姓／別姓を選ぶ権利～市民と学術の対話から～

第二部活動報告

(令和2年10月～令和3年3月)

1

組織及び活動の概要

第二部は現会員70名、下記の10委員会のもとに95分科会(環境学委員会分科会を含む。環境学委員会は融合領域分野として第一部、第三部と共に設置)が設けられており、各分野に特徴ある活発な活動を展開している。部会は10月、4月の総会時および夏季の計3回開催され、役員会は幹事会の開催日に合わせて行われており、部の運営方針を決定している。

部長:武田洋幸 副部長:丹下 健 幹事:尾崎紀夫、神田玲子		
分野別委員会	委員長	分科会数 95(計93+2*)
基礎生物学委員会	小林 武彦	15
統合生物学委員会	北島 薫	7
農学委員会	仁科 弘重	14
食料科学委員会	古谷 研	9
基礎医学委員会	松田 道行	11
臨床医学委員会	名越 澄子	14
健康・生活科学委員会	小松 浩子	8
歯学委員会	市川 哲雄	4
薬学委員会	佐治 英郎	6
環境学委員会	浅見 真理	6

※また、第二部が直接統括する分科会として以下を設置(いずれも前期からの継続)。

- 第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会(委員長:熊谷 日登美)
- 第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会(委員長:秋葉 澄伯)

2

第二部会、第二部拡大役員会の開催

第二部部会：

第1回(令和2年10月 2日)

議題等：

<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/2bu/index.html>

第二部拡大役員会：

(二部役員+分野別委員会委員長)

第1回(令和3年1月22日)

議題等：

<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/2bu/index.html>

3

第二部が直接統括する分科会 #1

◆ 第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会

- 設置目的:生命科学分野の大学・研究機関・学協会におけるジェンダー・ダイバーシティに関わる現状を把握し、女性研究者や外国人の研究者が活躍できるようにするにはどうすれば良いかについて検討を行う。
- 審議事項:
 1. 生命科学分野の大学・研究機関・学協会における女性活躍推進のための方策の検討
 2. 生命科学分野におけるダイバーシティ推進に向けた方策に係る審議に関すること
- 第1回分科会(2021年3月1日)

24期の活動についての報告(生命科学分野(医学・歯学・看護学・薬学・家政学・農学・基礎生物学)の現状と課題の把握について、調査結果や公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティに関する課題と今後の展望」、「男女共同参画における現状と課題」調査執筆等)。

25期の活動計画として、公開シンポジウム(大学、学協会等のテーマ別)の開催計画を立てること等について議論された。

4

第二部が直接統括する分科会 #2

◆ 第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会

- 設置目的: 大規模感染症等を予防・制圧するために必要な体制の整備等についての現実的な提言に向けた検討を行う
- 審議事項: 国民の健康・福祉の脅威となりうる感染症に関して以下の検討を行う
 1. 過去および将来の感染症流行による公衆衛生上の危機の検討
 2. 感染症流行予防に必要な組織とその連携
 3. 国民の健康・福祉の脅威となりうる感染症流行に迅速・適切に対応するために必要な組織との連携
 4. 感染症を制圧するために必要な組織とその連携
 5. 感染症予防・制圧体制に必要な国際連携と協働
 6. その他、第二部幹事会が必要と考える感染症流行に関する事項に係る審議に関すること
- これまでに6回の分科会を開催(11/18、12/17、1/19、2/24、3/30、4/20)
新型コロナウイルス感染症対策の現場で活動されている方々の講演、提言の作成について議論された。
- 学術フォーラムの開催
「新型コロナウイルス感染症コントロールに向けての学術の取り組み」
2020年11月28日開催
日本医学会連合との共同開催

5

COVID-19に関する学術フォーラム



一般社団法人
日本医学会連合
The Japanese Medical Science Federation

学術フォーラム

「新型コロナウイルス感染症コントロールに向けての学術の取り組み」

主催：日本学術会議 共催：日本医学会連合
日時：令和2年11月28日(土) 13時から
会場：オンライン開催

趣旨：

学術界全体として新型コロナウイルス感染症コントロールに向けてどのように取り組んできたのか、そしてこれからどのように取り組んでいくのか、一線の研究者から国民の皆様にお伝えする。

事前登録数：約1,000名 最大同時視聴数 474名

発表資料閲覧可能

<http://www.scj.go.jp/ja/event/2020/303-s-1128.html>

日本学術会議からの報告

- ・ 提言「感染症の予防と制御を目指した常置組織の創設について」
郡山千早 日本学術会議連携会員、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科教授
- ・ 提言「感染症対策と社会変革に向けたICT基盤強化とデジタル変革の推進」
高倉弘喜 国立情報学研究所アーキテクチャ科学研究系教授・同サイバーセキュリティ研究開発センター長

日本医学会連合とその加盟学会の活動報告と提案

- ・ 健康危機管理と疾病予防を目指した政策提言・支援組織の創設の必要性
磯 博康 日本学術会議会員、日本医学会連合Japan CDC 創設に関する委員会(第二次)委員長、大阪大学大学院医学系研究科教授
- ・ コロナ禍における医療提供体制～外科系学会としての取り組み
北川雄光 日本学術会議会員、日本医学会連合理事、日本外科学会監事
- ・ コロナ禍における医療提供体制～内科系学会の取り組み
館田一博 東邦大学医学部教授、日本感染症学会理事長、日本学術会議第24期特任連携会員

学術報告

- ・ 新型コロナウイルスのウイルス学的特徴
野田岳志 京都大学 ウイルス・再生医科学研究所教授
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大動向の把握に挑む
中野貴志 日本学術会議連携会員、大阪大学核物理研究センター教授
- ・ 臨床の現場からの現状の分析と提案
三嶋廣繁 日本学術会議連携会員、愛知医科大学医学部感染症科
- ・ 新型コロナウイルスワクチン開発の現状と展望
朝長啓造 京都大学ウイルス・再生医科学研究所教授
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大で顕在化してきたメンタルヘルス問題対策とは：収束後に向けて
神尾陽子 前日本学術会議会員、日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学客員教授、発達障害クリニック附属発達研究所所長
- ・ デジタル技術によるデータ駆動医療
喜連川優 日本学術会議連携会員、国立情報学研究所所長、東京大学生産技術研究所教授

6

関連学協会との連携

- 第25期会員任命問題に対して内閣総理大臣あてに提出した「第25期新規会員任命に関する要望書」(令和2年10月3日)に対して、第二部関連の学協会を含め多くの学協会やその連合体が賛同の意思表示をされた。
- 学術会議幹事会は、記者会見を月2回開催して社会に対して情報発信するとともに、会員・連携会員や協力学術研究団体に記者会見内容をメーリングリストで通知してきた。第二部では、学協会連合体に対して記者会見内容の通知を行った。

連携している学協会連合： 生物科学学会連合、脳科学関連学会連合、一般社団法人日本農学会、公益財団法人農学会、日本医学会連合、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会、一般社団法人日本歯科医学会連合、日本薬学会

- 第二部が中心となって新型コロナウイルス感染症に関する学術フォーラムをシリーズで開催することを第二部役員会で決定し、そのうちの4回を日本医学会連合と共同で開催する計画である。第1回のテーマ等は以下の通りである。

日本学術会議学術フォーラム「新型コロナウイルス感染症の最前線 – what is known and unknown #1」

「新型コロナウイルスワクチンと感染メカニズム」

開催年月日:令和 3年5月8日 (土曜日) 13:30~16:45

開催場所:WEB開催

シンポジウム等(開催済) #1 (令和2年10月~令和3年3月)

第二部においては、令和2年10月から令和3年3月の期間中、12件の公開シンポジウムを開催した。

開催日	名称	開催場所	委員会・分科会
令和2年 10月14日(水)	「次世代統合バイオイメージングと数理の協働の展望」	オンライン開催	基礎生物学委員会、統合生物学委員会、生物物理学分科会、UPAB分科会、バイオインフォマティクス分科会
令和2年 11月13日(金)	「東北マリンサイエンス拠点形成事業と今後の水産研究のあり方」	オンライン開催	水産学分科会、農学委員会
令和2年 11月14日(土)	「One health:新興・再興感染症~動物から人へ、生態系が産み出す感染症~」	オンライン開催	食料科学委員会、獣医学分科会、食の安全分科会
令和2年 12月5日(土)	「食の安全と環境ホルモン」	オンライン開催	食料科学委員会、職の安全分科会、獣医学分科会、毒性学分科会
令和2年 12月8日(火)	「モダリティーが切り拓く次世代創薬」	オンライン開催	薬学委員会、化学・物系薬学分科会、生物系薬学分科会
令和3年 1月18日(月)	「創薬を加速させる革新的な細胞・臓器・個体モデル」	オンライン開催	生物系薬学分科会、化学・物理系薬学分科会
令和3年 3月20日(土)	「食の安全と社会:科学と社会の対話vol2」	オンライン開催	獣医学分科会、食の安全分科会

シンポジウム等(開催済) #2 (令和2年10月～令和3年3月)

令和3年 3月21日(日)	「農芸化学の目から食の役割を考える」	オンライン開催	農芸化学分科会
令和3年 3月21日(日)	「動物たちの意図共有」	オンライン開催	行動生物学分科会
令和3年 3月21日(日)	「新型コロナウイルスパンデミック下での食糧問題に 農芸化学分野が果たす役割」	オンライン開催	農芸化学分科会
令和3年 3月28日(日)	「現代社会とアディクション」	オンライン開催	アディクション分科会、神経科学分科会、 脳とこころ分科会
令和3年 3月29日(月)	「ポストコロナの日本の畜産」	オンライン開催	畜産学分科会

9

幹事会・コロナ対応WGの設置と活動について #1

幹事会の下に設置(1月28日)

メンバー: 副会長、各部の役員(二部は全役員)、
大規模感染症予防・制圧体制検討
分科会から若干名

審議事項:

大規模感染症、特に新型コロナウイルス感染症
に関する課題抽出、学術会議での審議連携、
適切な情報発信、シンポジウム企画、関連する
学協会との連携、国際協力に関すること

現在までの活動:

- ・分科会へのアンケート調査
- ・HPからの情報発信の強化
- ・学術フォーラムを通して学術情報の発信強化

WGメンバー

望月 真弓	慶應義塾大学名誉教授・薬学部特任教授	副会長 第二部会員
日比谷 潤子	学校法人聖心女子学院常務理事	第一部幹事
和氣 純子	東京都立大学大学院人文科学研究科教授	第一部会員
武田 洋幸 (世話人)	東京大学副学長、大学院理学系研究科教授	第二部長
丹下 健	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	第二部副部長
尾崎 紀夫	名古屋大学大学院医学系研究科教授	第二部幹事
神田 玲子	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構高度被ばくセ ンター副センター長	第二部幹事
北川 尚美	東北大学大学院工学研究科教授	第三部幹事
東野 輝夫	大阪大学大学院情報科学研究科教授	連携会員
秋葉 澄伯	弘前大学特任教授	連携会員 第二部大規模感染症予 防・制圧体制検討分科会
高倉 弘喜	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学 研究所教授	特任連携会員 第二部大規模感染症予 防・制圧体制検討分科会
福井 由宇子	国立成育医療研究センター	日本学術会議事務局上 席学術調査員

10

幹事会・コロナ対応WGの設置と活動について #2

◆ 2020年12月から2021年2月 全分科会（246）へアンケート実施

問：COVID-19に関連する学術フォーラム・公開シンポジウムの予定または審議予定

30-40の分科会がCOVID-19に関連した審議、情報発信を実施・予定している。

主なキーワード:

社会の分断（貧困問題、経済格差、教育格差、地域格差、ジェンダー格差）、経済・政策、ポストコロナの社会構想、グローバルな法政策、実技・実習教育

ワクチン、疫学調査、医学・臨床研究の問題点、ケアサイエンス（介護崩壊）、医療系の人材育成、非常時の人材管理、野生動物、グリーンリカバリーと植物保護、COVID-19とスマート農業、食糧問題、食の安全、アディクション（依存症）、メンタルヘルス（自殺急増）

デジタル変革、データサイエンス、オープンサイエンス、プラスチックガバナンス、オンライン理工系教育、応用物理の役割、建築、都市、分析化学・結晶学、シミュレーション研究

学術会議の特徴を活かした多様な視点（人文・社会科学、生命科学、理学・工学）からコロナ禍の状況を分析し、課題の抽出を行っている

11

幹事会・コロナ対応WGの設置と活動について #3

◆ HPの改修 新型コロナウイルス感染症に関する情報発信の強化

◆ 学術フォーラム 新型コロナウイルス感染症シリーズ

・新型コロナウイルス感染症の最前線 - what is known and unknown #1から#4
（日本医学会連合と共同主催）

・「パンデミックに世界はどう立ち向かうのか～国際連携の必然性と可能性～」(案) (2021年9月以降)

この他、
コロナ禍でのオープンサイエンス、教育問題などのテーマがあがっている

12

学術フォーラム「新型コロナウイルス感染症の最前線 - what is known and unknown # 1 新型コロナウイルスワクチンと感染メカニズム」 2021年5月8日(土)

主催: 日本学術会議、日本医学会連合、後援: 日本生命科学アカデミー 開催日時: 2021年5月8日土曜日午後1時半から5時ころまで 開催形式: WEB開催

13:30-13:35	挨拶 (ビデオ) 梶田隆章 日本学術会議会長
13:35-13:40	挨拶 (ビデオ) 門田守人 日本医学会連合会長
13:40-14:20	「ウイルス感染症の征圧に向けて- これまでにわかったこと」 河岡義裕氏 日本学術会議第二部会員 東京大学医科学研究所 特任教授 国立国際医療研究センター、国際ウイルス感染症研究センター長
14:20-15:00	「新型コロナウイルスワクチンの有効性と安全性」 “ワクチンって効くの、安全なの?” 西順一郎氏 (日本医学会連合推薦) 日本感染症学会ワクチン委員会委員長 (鹿児島大学大学院医学総合研究科微生物学分野教授)
	休憩
15:15-15:45	「COVID-19ワクチン開発はなぜ遅れたのか? -歴史から学ぶこと-」 中山哲夫氏 北里大学大村智記念研究所特任教授
15:45-16:15	「新型コロナウイルスワクチン供給にむけた国際協力 (COVAXなど)」 “ワクチンはみんなにいきわたるの?” 國井修氏 世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (グローバルファンド) 戦略・投資・効果局長
16:15-16:25	まとめ 岸玲子 日本医学会連合副会長
16:25-16:45	閉会の挨拶 武田洋幸 日本学術会議第二部部長

司会 門脇孝 日本医学会連合副会長 望月眞弓 日本学術会議副会長
コーディネーター

日本医学会連合: 名越澄子 (理事)、北川雄光 (理事)

日本学術会議: 丹下健 (第二部副部长)、秋葉澄伯 (第二部大規模感染症予想制圧体制検討分科会委員長)

13

今後開催予定の新型コロナウイルス感染症関係の公開講演会(二部関連)

2021年 4月24日	公開シンポジウム「くすりのエキスパートが語る“よくわかる新型コロナウイルスワクチン”」 主催: 公益社団法人日本薬学会、日本学術会議 薬学委員会 医療系薬学分科会、地域共生社会における薬剤師職能分科会、化学・物理系薬学分科会
2021年5月8日	学術フォーラム「新型コロナウイルス感染症の最前線 - what is known and unknown # 1 新型コロナウイルスワクチンと感染メカニズム」 主催: 日本学術会議、日本医学会連合
2021年5月23日	公開シンポジウム「With/Afterコロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み」 主催: 日本学術会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会、臨床医学委員会老化分科会、健康・生活科学委員会看護学分科会、社会学委員会社会福祉学分科会
2021年 6月20日	公開シンポジウム「脳とところから見たWith/Postコロナ時代のニューノーマルの課題と展望1」
2021年 6月27日	公開シンポジウム「脳とところから見たWith/Postコロナ時代のニューノーマルの課題と展望2」 主催: 日本学術会議 臨床医学委員会脳とところ分科会 第一部: 心理学・教育学委員会脳と意識分科会、健康・医療と心理学分科会 第二部: 大規模感染症予防・制圧体制検討分科会、基礎医学委員会神経科学分科会、基礎医学委員会・臨床医学委員会合同アディクション分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会 第三部: 情報学委員会

(主催のみ記載)

第三部報告

令和2年10月～令和3年3月

第三部部会(前回総会中) 10/2

第三部拡大役員会 10/29, *10/30, 11/26, 12/24, *1/28, 2/25, *3/25

* 分野別委員会委員長も参加

部長 吉村 忍
副部長 米田 雅子
幹事 沖 大幹
幹事 北川 尚美

1

第三部における分野別委員会

	委員長	副委員長
環境学委員会 *	浅見 真理	池邊 このみ
数理科学委員会	小澤 徹	齋藤 政彦
物理学委員会	野尻 美保子	腰原 伸也
地球惑星科学委員会	田近 英一	佐竹 健治
情報学委員会	相澤 清晴	谷口 倫一郎
化学委員会	茶谷 直人	北川 尚美
総合工学委員会	小山田 耕二	玉田 薫
機械工学委員会	大島 まり	金子 真
電気電子工学委員会	中野 義昭	中川 聡子
土木工学・建築学委員会	小林 潔司	田辺 新一
材料工学委員会	山口 周	乾 晴行

* 1部～3部合同

11分野別委員会のもとに80分科会が設置され活動

2

第三部の附置分科会

理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会

委員長 野尻 美保子

副委員長 伊藤 貴之

日学のあり方の議論をフォローしつつ、さらに、部をまたがって議論すべきテーマ(後述)について、検討中

参考 25期の三部も深く関わる課題別委員会

「[防災減災](#)学術連携委員会」

「[自動運転](#)の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会」

「[オープンサイエンス](#)を推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会」

「[学術情報のデジタルトランスフォーメーション](#)を推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会」

3

令和2年10月～令和3年3月の活動

1. 第三部会での議論(10月2日)

- 三部内にまたがって議論すべきテーマ、部を超えて議論すべきテーマ、進め方等
- 会員任命問題への要望書について意見交換
- その他

2. 拡大役員会での議論(10/29, *10/30, 11/26, 12/24, *1/28, 2/25, *3/25 * 分野別委員会委員長も参加)

- 三部内にまたがって議論すべきテーマ、部を超えて議論すべきテーマ、進め方等
 - ➡ 例 With/Afterコロナ環境下のオンライン研究・教育、
カーボンニュートラル／ゼロエミッション、
基礎研究力・基盤研究力／長期研究力／基礎科学の振興
等
- あり方問題／会員任命問題について意見交換
- その他

4

3. 学術フォーラム開催

「コロナとの共生の時代における分析化学の果たす役割」(R2.11.11)
化学委員会・分析化学分科会【オンライン開催】

第11回防災学術連携シンポジウム
「東日本大震災からの十年とこれから—58学会、防災学術連携体の活動—」
(R3.1.14)
土木工学・建築学委員会、防災減災学術連携委員会【オンライン開催】

「新たな地球観への挑戦
— 地球惑星科学の国際学術組織の活動と日本の貢献 —」(R3.2.15)
地球惑星科学委員会・IGU分科会、IUGG分科会、IUGS分科会、
SCOR分科会、地球惑星科学国際連携分科会【オンライン開催】

5

4. 公開シンポジウム開催1

「複合災害への備え— withコロナ時代を生きる」(R2.10.3)
土木工学・建築学委員会、防災減災学術連携委員会(オンライン開催)

「COVID-19パンデミックを契機として考える日本の結晶学の現状と今後」
(R2.11.29)
化学委員会、化学委員会IUCr分科会、化学委員会物理学委員会合
同結晶学分科会【オンライン開催】

「第10回計算力学シンポジウム」(R2.12.7)
総合工学委員会【オンライン開催】

「科学的知見の創出に資する可視化 (5):
ICT /ビッグデータ時代の文理融合研究を支援する可視化」(R2.12.12)
総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会
【オンライン開催】

6

4. 公開シンポジウム開催2

「社会生活のデジタル改革」(R3.1.13)
情報学委員会【オンライン開催】

「新型コロナウイルス禍に学ぶ応用物理：未来社会に向けて」(R3.3.17)
総合工学委員会未来社会と応用物理分科会【オンライン開催】

「日本学術会議と日本天文学会-よりよい連携のために」(R3.3.17)
物理学委員会天文学・宇宙物理学分科会、IAU分科会【オンライン開催】

「第67回構造工学シンポジウム」(R3.4.17～18)
土木工学・建築学委員会【オンライン開催】

「国際光デー記念シンポジウム ～レーザー誕生60年～」(R3.5.21)
総合工学委員会ICO分科会【オンライン開催】

7

4. 公開シンポジウム開催3

「第33回環境工学連合講演会」(R3.5.25)
土木工学・建築学委員会【オンライン開催】

「地質災害研究の最先端と社会実装への取り組み」(R3.5.26)
地球惑星科学委員会IUGS分科会【オンライン開催】

8

5. 理学・工学系学協会連絡協議会

令和2年10月30日 13:00-15:20 WEB開催

25期体制の紹介、任命問題、日学のあり方、日学と学協会の連携・役割分担等について意見交換



今後の協議会の方向

科学技術力の低下問題、学協会のあり方、人材育成など、理学・工学を取り巻く諸課題を意見交換の予定

<24期の活動状況>

学協会アンケートと協議会での議論をもとに、第三部で学協会・学術情報問題の提言を発信した。

提言発出(H31.2) 学術フォーラム(H31.4)

学協会に係る法人制度一運用の見直し、改善等について

危機に瀕する学術情報の現状とその将来 part2

学協会連携分科会

第三部拡大役員会

提言発出(R2.9.28): 第三部附置分科会

提言「学術情報流通の大変革に向けた学術情報環境の再構築と国際競争力強化」

理学・工学系学協会連絡協議会(83学協会) 日本学術会議第三部役員会のもとに、理学・工学系の学協会との連携を強め、双方の活動をさらに発展させるために、科学・技術、学協会、日本学術会議等に関わる課題について意見交換する場として設置。多くの学協会に共通する課題(新公益法人制度、学術論文誌の出版、若手・人材育成、財政等)、科学・技術全般に跨る課題、学協会から日本学術会議への意見・要望等について、情報交換・意見交換を行ってきた。

- 第1回 平成22年4月23日(金)13:30~15:30
- 第2回 平成23年7月29日(金)13:30~15:30
- 第3回 平成24年5月18日(金)14:00~16:00
- 第4回 平成25年2月22日(金)10:00~12:00
- 第5回 平成26年6月25日(水)13:30~15:00
- 第6回 平成28年6月24日(金)10:00~12:00
- 第7回 平成29年8月31日(木)10:00~12:00
- 第8回 平成30年3月30日(金)10:00~12:00
- 第9回 平成31年3月28日(木)10:00~12:00
- 第10回 令和2年8月26日(水)10:00~12:00
- 第11回 令和2年10月30日(金)13:00-15:20

9

6. 今後の主な予定

第三部夏季部会を8月中旬に広島県にてオンラインで開催を計画中
これに併設して公開シンポジウムを企画中

三部内にまたがって議論すべきテーマ、部を超えて議論すべきテーマの選定と、具体的な立ち上げを検討する

第25期日本学術会議 若手アカデミー活動報告 (2020.10-2021.3)



作成：第25期日本学術会議若手アカデミー

第25期若手アカデミー

日本学術会議若手アカデミー (Young Academy of Japan) は、人文・社会科学と自然科学にまたがる多様な分野にわたる、45歳未満の研究者をメンバーとしています。

第25期全体委員数：49名
(うち特任連携会員：6名)

全体会議 ハイブリッド開催：11月30日
運営分科会 オンライン開催：12月16日, 1月22日, 2月22日

8つの分科会 (具体的な活動を担う)

学術の未来を担う人材育成分科会	(12名)
学術界の業界体質改善分科会	(5名)
越境する若手科学者分科会	(18名)
国際分科会	(11名)
地域活性化に向けた社会連携分科会	(13名)
イノベーションに向けた社会連携分科会	(12名)
GYA 総会国内組織分科会	(14名)
情報発信分科会	(11名)



全体会議スクリーンショット

第25期若手アカデミー運営分科会メンバー

幹事団



代表
岩崎 渉



副代表
安田仁奈



幹事
小野 悠



幹事
松中学

各分科会 委員長



国際分科会
入江直樹



GYA 総会
国内組織分科会
新福洋子



学術界の業界体質
改善分科会
川口慎介



地域活性化に向けた
社会連携分科会
加藤千尋



学術の未来を担う
人材育成分科会
平田佐智子



越境する若手科学者
分科会
石川麻乃



情報発信分科会
高田知実



イノベーションに向けた
社会連携分科会
高瀬堅吉

若手アカデミー分科会活動状況 (1/2)

分科会名	活動目的・内容	開催状況(2021年)
地域活性化に向けた社会連携分科会	現在、社会課題の解決に科学の知識や手法が有効であるだけでなく、科学する場としての地域社会、科学への市民の参加が見直されている。地域社会における科学者の役割を幅広く検討し、多様な主体との対話を重ねることで、科学と地域社会の持続的な関係性を再定義し、実現方策を検討する。	第1回 1月19日開催 3月1日公開ワークショップ「若手科学者が拓く地域と科学の関係」開催
学術界の業界体質改善分科会	研究従事時間の減少とそれ以外の業務の増加が指摘されるなか、研究に集中できる環境整備と健全なライフ・ワーク・バランスの確立は、重要な課題である。学会活動にかかる時間的負担やその他の慣例的な業務負担など、学術界の様々な「業界体質」を可視化し、その改善に向けた調査・議論を進める。	第1回 2月12日開催
イノベーションに向けた社会連携分科会	第25期若手アカデミービジョン・ミッションを共有し、「イノベーション」の概念整理に着手している。現時点で優先すべきイノベーション、イノベーションを起こすために必要なもの、イノベーションを阻むものについて議論する。今後、シンポジウムを開催し、広く市民との意見交換の場を持つとともに、関係団体と意見交換を行い、議論の内容を政策提言へとつなげる。	第1回 2月22日開催 第2回 4月16日開催 予定
情報発信分科会	若手アカデミーの活動を促進し、その有効性を高めるために、情報発信の媒体や方法を議論し、実践する。国内のアカデミアとその周辺に限定せず幅広い利害関係者をステークホルダーと捉え、若手アカデミーに関する理解や認識を得ながら対話し、双方向的なコミュニケーション活動を目指す。	第1回 4月15日開催 予定

若手アカデミー分科会活動状況 (2/2)

分科会名	活動目的・内容	開催状況(2021年)
学術の未来を担う人材育成分科会	大学院において専門教育を受けた多様な人材を活かすべく、高等教育が担う教養教育・専門教育の社会的価値を多角的に評価するための調査・議論を進める。また、大学院生が効果的な教育を受け研究に専心できる環境を構築するための調査・議論や精神的・経済的な環境に対して支援する枠組みのあり方について検討をおこなう。	第1回 2月17日開催
越境する若手科学者分科会	幅広い専門分野を持つ若手科学者間の研究交流を図り、既存の発想にとらわれない科学分野間の融合によって革新的な研究展開が生じうる新規領域やそれらが生む未来社会のビジョンの提案、新しいテクノロジー等を用いた市民との交流の実践を行う。	第1回 2月26日開催 研究交流会5回開催
GYA 総会国内組織分科会	国際的若手学術組織であるグローバルヤングアカデミー(GYA)と共に、科学技術の未来や世界規模の社会課題の解決を考えるGYA総会兼学会を日本で開催する。企画内容および登壇者の提案や国内的な準備を行い、かつ若手アカデミー以外の若手研究者や若手以外の研究者、行政官、産業界、一般市民も参加できる議論の場を設定できるよう連絡調整を行う。	第1回 1月21日開催 第2回 3月12日開催
国際分科会	世界における日本の学術の役割や、世界におけるわが国の学術をどのように進めていくべきかについて、若手科学者の立場から考える。既に関係の深い国際的若手学術組織であるGYAへの参画を通じ、他国の若手アカデミーとの交流を深め、また我が国との交流連携を深めるとともに、他国のアカデミーと共同して国際的発信を行う。	第1回 2月15日開催 第2回 3月24日開催 4月15日開催予定

活動資料 (地域活性化に向けた社会連携分科会)

公開ワークショップ 「若手科学者が拓く地域と科学の関係」

- ・開催日：2021年3月1日
- ・開催方法：Zoomウェビナー
- ・参加人数：143名

- ①一般参加者：122名 (事前登録139名, 参加率81%)
- ②登壇者：16名 (岩崎・加藤・田中・松中・小野含む)
- ③運営：5名 (岸村・近藤・高田・高槻・寺田)

趣旨：人口減少や少子高齢化、災害など様々な課題を抱える地域社会において、知識基盤・人材育成の中核として大学の役割が今後益々求められる。社会課題の掘り起こしから解決策の実行、新しい社会価値の提案まで、地域の大学、市民、企業、行政がともに持続的に取り組める仕組みが必要である。今回、様々な専門分野の学生・若手研究者による地域での実践を通じ、愛知県豊橋市の事例から、地域の方々とともに地域と科学のあるべき姿について議論する。

日時：2021年3月1日(月) 13:00-16:30
開催：オンライン開催 (Zoomウェビナー)

主催：日本学術会議若手アカデミー
地域活性化に向けた社会連携分科会
共催：豊橋まちなか会議、豊橋技術科学大学
後援：公益財団法人日本学術協会の財源提供による

若手科学者が拓く地域と科学の関係

13:00 開会挨拶
岩崎洋 (東京大学・准教授)

13:10 趣意説明
小野悠 (豊橋技術科学大学・講師)

13:20-13:50 基調講演「地域と科学を結ぶ大学の役割」
大西隆 (都市工学 | 豊橋技術科学大学・前学長 / 東京大学・名誉教授)

13:50-14:20 講演「若手科学者がみる地域と科学の関係」
田中和雄 (人工知能 | 政策研究大学院大学・リサーチ・フェロー)
松中幸 (法学 | 名古屋大学・教授)

14:30-14:55 講演「学生がみる地域と科学の関係」
池玉悠輝 (建築学 | 豊橋技術科学大学・修士課程)
宮本龍太郎 (都市工学 | 東京大学・博士課程)
佐藤真紀 (環境生物学 | 東京大学・博士課程)

14:55-15:40 講演「豊橋における地域と科学の関係」
飯本伸比古 (人文地理学 | 愛知大学・教授)
佐野道則 (機械工学 | 豊橋技術科学大学・准教授)
大村謙 (情報知能学 | 豊橋技術科学大学・准教授)

15:40-16:20 パネル討論「豊橋から拓く地域と科学の関係」
パネリスト
小野悠 (豊橋商工会議所・会頭)
寺田一彦 (豊橋技術科学大学・学長)
高山弘太郎 (産業情報工学 | 豊橋技術科学大学 / 愛知大学・教授)
小川直哉 (まちづくり | 豊橋まちなか会議・事務局長)
他、講演者
コーディネーター：小野悠

16:20 閉会挨拶
加藤千尋 (名古屋大学・助教)

こちらより事前に登録ください
<https://www.zoom.us/j/92917022264>

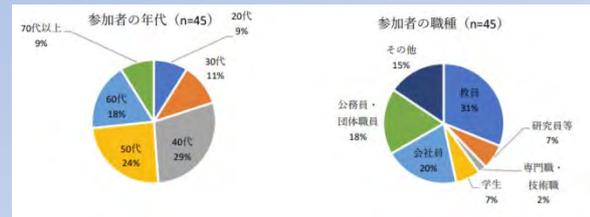
QRコード

地域

公開ワークショップ 「若手科学者が拓く地域と科学の関係」

実施概要：

若手アカデミー主催、豊橋まちなか会議、豊橋技術科学大学共催、公益財団法人日本学術協力財団原田弘二基金後援による公開ワークショップをオンラインで開催し、地域と科学を結ぶ大学の役割、地域と大学・研究者の連携のあり方について愛知県豊橋市を事例に議論を行なった。大学関係者のみならず、企業、行政などからも地域と科学の関係について高い関心が寄せられていることを改めて確認した。



今後の若手アカデミー活動予定



Japan Open Science Summit 2021 企画セッション 「学術会議若手アカデミーと考えるオープンサイエンス」

2021年6月18日（金）

企画趣旨：オープンサイエンスはOECDによれば「公的資金による研究成果を広く社会に開放すること」と定義されるが、その本質は学術の知識生産システムそのものを社会に開放することであり、学術と社会の関係そのものを問い直すアクションの一つと捉え直すこともできる。オープンサイエンスのアクションの担い手として、学術の将来を担う若手研究者の積極的な参画が期待される一方、若手研究者は減りゆく安定的なポジションを得るための熾烈な業績競争に晒されており、研究データの公開・共有に消極的であるという調査結果もある。

本セッションでは、日本学術会議の45歳未満の会員・連携会員から構成される若手アカデミーのメンバーとともに、若手を取り巻く環境と課題を考慮しつつ、学術と社会のよりよい関係構築に資するオープンサイエンスのあり方を議論する。

今後の若手アカデミー活動予定

筑波会議2021（2021年9月）

オンライン・コンカレントセッション

「オープンサイエンスと在来知をめぐる倫理的諸問題」



企画者：日本学術会議若手アカデミー

オーガナイザー：近藤康久

概要：公的資金による研究成果を広く社会に開放するオープンサイエンスの動きが国内外で進んでいる。科学技術政策としてのオープンサイエンスは研究データのオープン化をねらいとするが、地域社会に備わる伝統知・在来知は、必ずしもオープン化にそぐわないことがある。本セッションでは、哲学、民俗学、保全生態学、看護学などの若手研究者が、研究の現場における在来知の取り扱いに関する経験を持ち寄り、科学知と在来知の融合やオープン化の望ましいあり方について国際的に議論する。

今後の若手アカデミー活動予定

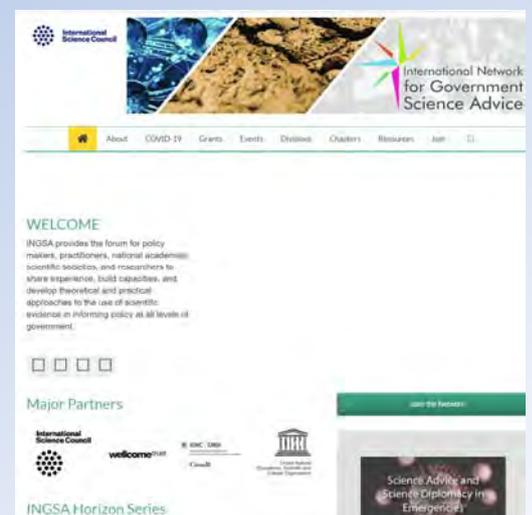
国際代表派遣

2021年6月

Global Young Academy総会 4名(岩崎・新福・岸村・安田)

2021年9月

INGSA 1名(新福)



Global Young Academy 2022年次総会兼学会

2022年6月にGYA総会を九州大学伊都キャンパスで開催予定
委員長：新福洋子

テーマ：理性と感性のリバランス～科学と社会の関係性を見直し、
新たなつながり方による包括的、持続的な社会の形成



- ①科学知と在来知の発展的融合
- ②科学者の社会とのコミュニケーションの拡大
- ③市民の科学的プロセスへの参加に関する具体的議論により、科学と社会の新しいつながり方を提案する。

第25期若手アカデミー ビジョン・ミッション

20年後の科学・学術と社会を見据えたリモデリング戦略を考える

- 研究者コミュニティのみならず政府・産業界・メディア・国民や諸外国の若手アカデミーとも対話・連携することで、世界や日本が直面する諸問題、また、若手研究者をとりまく諸問題に関する解決策を提示し、実行していく
- 多様な観点から分科会活動を行うとともに、幅広い専門性からの知見を集約することで、20年後の科学・学術と社会を見据えた「リモデリング戦略」を提示する

どうぞ、よろしくお願いいたします。

